

卒業要件及び進級要件等

(1) 卒業要件

卒業に必要な単位数は 124 単位である。その修得方法は、必修科目として教養教育科目 8 単位、学部共通科目 10 単位、専門基礎科目 6 単位、専攻科目 42 単位（卒業論文 12 単位を含む）、選択科目として教養教育科目 15 単位以上、学部共通科目 8 単位以上（ただし、都市デザイン学群から 4 単位以上、データサイエンス群から 2 単位以上を含むこと）、専門基礎科目 4 単位以上、専攻科目 21 単位以上（ただし、“堆積学、地史学、火山学”の 3 科目から 2 単位以上と、“応用気象学、災害地質学、環境磁気学、地球物質科学”の 4 科目から 2 単位以上を含むこと）、自由選択科目として科目区分を問わない 10 単位を修得することである。

(2) 教科の選択について

必修科目は、地球システム科学科の学生にとって基礎的、かつ学問的核となる科目である。一方、選択科目は、皆さんの学問的裾野を広げるために重要な科目である。そのため、できるだけ幅広い分野について履修することを希望している。ただし、この選択科目の中には、4 年進級時に卒業研究をスムーズに進めるために履修しておいてほしい科目（履修推奨科目）が、研究分野ごとに定められている。

各研究分野の履修推奨科目：

地質学・岩石学分野：堆積学、火山学、災害地質学、地球物質科学、地史学、野外実習Ⅰ、地質学実験、地質学実習、野外実習Ⅱ、岩石・鉱物学実験Ⅰ、岩石・鉱物学実験Ⅱ、地質調査法実習

固体地球物理学分野：物理学序論、環境磁気学、応用数学、地球計算機実習 A、地球計算機実習 B、地球物理学実験Ⅰ、地球物理学実験ⅡB

流体地球物理学分野：物理学序論、応用数学、データサイエンス応用、地球流体力学、リモートセンシング学、応用気象学、地球計算機実習 A、地球計算機実習 B、地球物理学実験Ⅰ、地球物理学実験ⅡA、地球物理学実験ⅡC、地球物理学実験ⅡD

上記は、これらの科目を修得していないと、その分野の研究室に進めないということを意味するものではないが、各研究分野と履修推奨科目の対応関係を意識しながら慎重に履修計画を立ててほしい。

(3) 4 年進級の要件

卒業論文（12 単位）以外の卒業に必要な単位を修得済みであること。

別表Ⅰ（第6条関係）

卒業に必要な修得単位数

区分 \ 学科		地球システム科学科		都市・交通デザイン学科			材料デザイン工学科	
		必修	選択	必修	選択 必修	選択	必修	選択
教養教育科目		23		23			23	
専門 科目	学部共通科目	10	8	12	2	0	9	3
	専門基礎科目	6	4	10	—	—	1	12
	専攻科目	42	21	30	—	37	18	48
	小 計	91		91			91	
自由選択科目		10		10			10	
合 計		124		124			124	

備 考

自由選択科目には、次に掲げる授業科目を含むことができる。

- (1) 教養教育科目のうち、選択及び選択必修で必要と定められた単位数を超えて修得した科目
- (2) 専門科目のうち、選択及び選択必修で必要と定められた単位数を超えて修得した科目
- (3) 他学科の専攻科目及び他学部の授業科目（別に定める教員免許状取得のための科目を除く。）

【参考】 G P A（グレード・ポイント・アベレージ）

富山大学では、G P A制度（G P A：履修科目の成績の平均値）を導入しています。

成績評価を下表のG P（グレード・ポイント）の数値に換算し、学期G P A、学年G P A及び累積 G P Aを算出します。このうち、学年G P Aと累積G P Aを各学年の成績通知書に記載します。各G P Aの算出方法は以下のとおりです。

$$(i) \text{ 学期G P A} = \frac{(\text{当該学期の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のG P}) \text{ の総和}}{\text{当該学期の履修科目総単位数}}$$

$$(ii) \text{ 学年G P A} = \frac{(\text{当該学年の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のG P}) \text{ の総和}}{\text{当該学年の履修科目総単位数}}$$

$$(iii) \text{ 累積G P A} = \frac{(\text{在学期間中の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のG P}) \text{ の総和}}{\text{在学期間中の履修科目総単位数}}$$

※履修登録科目の確認を怠り、履修しない授業科目が履修登録されている場合や、履修取消の手続きを行わず受講しなかった場合の成績は「不可」となり、G P Aに算入されるので注意すること。なお、「不可」となった場合、同一科目を再履修し単位を修得することで累積G P Aの対象外とすることができます。（ただし、学期G P A及び学年G P Aには算入されたままです。）

成績の評語に対する評価基準及びG Pの対応表

成績の評語	G P	評価基準
秀 (S)	4	到達基準を達成し、極めて優秀な成績を修めている
優 (A)	3	到達基準を達成し、優秀な成績を修めている
良 (B)	2	到達基準を達成し、良好な成績を修めている
可 (C)	1	到達基準を達成している
不可 (D)	0	到達基準を達成していない

「認」、「合格」及び「不合格」をもって評価される授業科目は、G P A 算出の対象外とします。